

これならわかる 複式簿記入門

(C) シンシステムデザイン

複式簿記がわかるとこんなにお得！

まずは次のことを考えてみよう。

1. 今月の給与は 300,000 円で、
2. 今月は消費者金融から 200,000 円を借りました。
3. 今月の生活費はいくらつかえるかなあ？

これを家計簿(単式簿記)で考えると次のようになります。

1. しめた、財布の中にはお金が 50 万円あるので今月はらくらくだ。
2. と、思って今月は 40 万円使いました。
3. 今月は楽しかった、まだ財布の中には 10 万円のこっているぞ！！

でも、複式簿記を知っているお友達はこれを見て、

1. これは大変だ！！
2. 給与の収入と借入れからの収入は、同じ収入でも違うんだ。
給与の収入は**収益**、借入金の収入は**負債**と言うのだよ。
3. それから、生活費で使った支出は**経費**と言うのだよ。
4. 最低この三つがわかれば、**複式簿記**がわかるようになります。

この例を単式簿記(家計簿)で考えると次のようになります。

	収 入	支 出
給与	300,000 円	
消費者金融から	200,000 円	
生活費		400,000 円
合 計	500,000 円	400,000 円

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{今月の収入} \\ \hline 500,000 \text{ 円} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{今月の支出} \\ \hline 400,000 \text{ 円} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{今月の収支残高} \\ \hline 100,000 \text{ 円} \\ \hline \end{array}$$

単式簿記では、このように収入と支出だけの把握しかできません。

もちろん、実際には頭のどこかで**借入金（負債）**があることは把握しながら毎日の生活を送っていますが、家計簿ではそのことが明示されません。

では、複式簿記ではどうでしょうか。

1. 給与 300,000 円は、今月発生した**収益**です。
2. 消費者金融からの借入金は、将来返済しなければならないので収益ではありません。このようなものは**負債**といます。
3. 生活費は今月使うと無くなるので、**経費**といます。

そこで、今月の家計を収益と経費で考えると次のようになります。

今月の収益 300,000 円	—	今月の経費 400,000 円	=	今月の 損益勘定 △100,000 円
--------------------	---	--------------------	---	-------------------------------

これはたいへん、ということになります。

複式簿記ではこの関係を“**損益計算書**”と言って次のような計算書で表します。

損益計算書

収益	300,000
経費	400,000
損益	△100,000

では、現金や負債はどこにいったのでしょうか。

実は、これらを表すものが複式簿記では“**貸借対照表**”と言って次のように表します。

貸借対照表

現金	100,000	借入金	200,000
		損益	△100,000

この貸借対照表で次のことがわかります。

1. 現在借入金は 200,000 円あり、これは借りたお金なので必ず将来返さなければならない。こういう借入金を**負債**と言います。
2. 損益計算書の翌月への繰越に**損益**が貸借対照表にも表示され今月は赤字だったのだとわかりますね。
3. では現金はどうか？
借入金で増えた 200,000 円と今月赤字になった 100,000 円を差引すると、手元にある現金は 100,000 円であることが、一目瞭然です。
4. このような現金などを簿記の用語では**資産**と言います。

このように複式簿記では、今月の**収益や経費**が損益計算書からわかり、さらに大切なことですが、今の**負債や資産**の状態が貸借対照表でわかるのです。

会社の経営状態を知りたい！！

今、金利がとても低いので、株式にも投資してみたいなあ。。。。。

実は、インターネット上に公開を義務付けられている有価証券報告書の貸借対照表を見るだけでもいろいろなことがわかります。

たとえば、

貸借対照表

単位 億円

流動資産	20	借入金	2,000
有価証券	3,000	資本金	100
固定資産	100	利益剰余金	920
		損益	100

1. わー、この会社はすごい、繰越利益は 100 億円あり、資産も 3,120 億円もある。
2. でも待てよ、この会社の借入金は資本金の 20 倍あり、毎年の損益から返さなければならい。
3. それに有価証券がとても多いので、もし保有している株価の大きな下落があれば、大きな評価損が発生するかもしれない。。。。
4. この会社への投資は見送りかな？

たとえば、

貸借対照表

単位 億円

現金預金	20	借入金	0
売掛金	300	資本金	100
		利益剰余金	20
		損益	200

1. わー、この会社はすごい、繰越利益は 200 億円あり、しかも借入金は 0 の健全経営だ！！
2. でも、ちょっと待てよ、売掛金の繰越 300 億円は大きすぎる！！
取引先は大丈夫なのかな？
3. という訳で、この会社への投資も見送りかな。

これだけわかると今すぐ複式簿記ができる！！

益金(収益)の発生の例

借方科目	貸方科目	金額
現金預金	売上	300,000
現金預金	利子収入	3000

損金(経費)の発生

借方科目	貸方科目	金額
消耗品費	現金預金	8,000
光熱水費	現金預金	30,000
交通費	現金預金	10,000

固定資産の増加(自動車を買った)

借方科目	貸方科目	金額
車両	現金預金	2,500,000

固定負債の増加(お金を借りた)

借方科目	貸方科目	金額
現金預金	借入金	200,000

さて、このように仕訳を行っていく、**その鍵は**

貸借対照表では、「現金預金」は、借方(左)に書くという約束になっているので、

- 現金預金が増えるような取引は、「現金預金」科目を左(借方)に、
- 現金預金が増える取引は、右(貸方)に「現金預金」を書くことになっています。

その仕訳の結果がどのようなになるかは、是非「青色申告らくらく会計」の体験版ソフトで試してみてください。

複式簿記では左を借方、右を貸方と約束しています。

余談ですが、

現金預金をなぜ借方にかくのか？

お金は天下の周り物と考え、その理由が何となくわかるのではないかと思います。

- お金が入る ⇒ 天からお金を借りた。
- お金が出ていく ⇒ 天にお金を貸した。